大平墓地公園遺跡出土石器について

齋藤　岳[1)]・杉野森淳子[2)]・岡本　洋[2)]

Stone Tools Found at Odai-Bochi-Koen Site

SAITO Takashi, SUGINOMORI Junko and OKAMOTO Yo

キーワード：大平山元地区、珪質頁岩原産地、縄文時代、石器製作跡、石匙素材剥片に対応する石核

はじめに

青森県内の縄文時代前期後半の円筒下層式期には、石匙の出土数量が多い事は分析されている（羽生2005など）。発掘調査報告書においても1980年刊行の青森県平川市大面遺跡の報告で、すでに縄文時代前期中葉での石匙出土量の増大が記され、対応する縦長剥片を剥離した石核について記述されている。原石から礫皮を除去して平坦な打面を作り出して、縦長剥片を剥離した石核が図示され、「剥離方法はブレイドテクニックに類似する」と記載された（小笠原1980）。縦長剥片を素材とした石匙や大型の削器も図示された。約300点という多量の石核のほとんどは珪質頁岩であるが、遺跡周辺の早瀬森層や万左衛門山層からもたらされたと推定されている（池田1980）。原石産地周辺の遺跡であるために、多数の石核が出土したと考えられる。円筒下層式期の石匙は、大面遺跡出土品を含めて長さが10cm程度の縦長のものが多い。しかし、図示された石核と石核接合剥片から読み込める縦長剥片は最大でも7cm程度である。出土した石核は、剥離がさらに進行し、小形となったため長さが対応しないと考えておきたい。

しかしながら、良質な原石産地周辺の規模の大きな石器製作遺跡では、原石獲得の労力が少ないと考えられることから、石核が大きさを保った状態で残っている場合が想定される。そして、青森県内では津軽半島などにも石器製作遺跡が知られている。外ヶ浜町蟹田の大平地区は、大平山元Ⅰ遺跡、同Ⅱ遺跡、同Ⅲ遺跡など旧石器時代から縄文時代草創期の遺跡が存在する。この地が珪質頁岩の原産地であることが遺跡群形成の要因とされる（外ヶ浜町教育委員会2019）。そして縄文時代の石器製作遺跡（葛西1972）である大平墓地公園遺跡も立地する。齋藤岳は、2007年頃、青森県立郷土館の学芸員時代に、館所蔵の青森県外ヶ浜町蟹田の大平墓地公園遺跡の採集資料の中に、長さ10cmを超える縦長剥片を連続的に採取した痕跡が残る石核を観察した（後述の図５－１）。正面が石刃核に類似すると感じ（註１）、石匙の素材を剥離したものである可能性を考え、本遺跡採集資料の資料紹介を企図した。以上の経緯から縦長剥片の生産に関係する石核や縦長剥片、縦長剥片素材の石器から抽出して図化することになった。

また、郷土館所蔵の大平墓地公園遺跡の採集品には、寄附された登録資料があり大型石核が写真紹介されている（青森県立郷土館1984）。石器製作遺跡で出土が多い両面調整石器も含まれている。そのため、作業手順としては2008年頃、まず登録資料の図化から着手した。その後、齋藤が他機関へ転任したため整理作業は中断していたが、杉野森淳子および岡本洋の協力により、残りの石器の図化が可能となった。作成途中であった原稿や表についても再検討したうえで、本稿にまとめた。

本稿では、まず寄附資料、当館採集資料の順に紹介し、その由来を記す。次に本遺跡について言及された論著を記載し、遺跡の現状についても紹介することとしたい。

１．大平墓地公園遺跡の寄附資料

登録番号は291で、収蔵年月日は1971年10月19日である。計12点の石器で大平地区に所在していた大山小学校に勤務していた小山内文栄氏（註２）から寄贈を受けた。本稿では磨製石斧を除いた11点を資料紹介する。大型の石核については、同遺跡出土の剥片とともに開館以来1990年代の展示替えまで常設展示室で展示されていた。図３－１は、その石核であり、正面側に節理面が、裏面側には礫面が残る。長さ22.6cm、幅18.1cm、重量3472.1gの大型品である。石核の縁辺から求心的に縦長剥片を剥離した痕跡が多数残る。長さのある縦長剥片としては、裏面左上を打点として長さ９cm、幅約3.5cmの剥片、その左の近接した打点から長さ8.6cm、幅約４cmの剥片が剥離された事が読み取れる。齋藤がこれまで目にしてきた遺跡出土品では、求心的に剥片を剥離した石核は、小形になり幅広の縦長剥片や横長剥片を剥離した痕跡が残っている事が多い。長さのある縦長剥片の剥離痕跡が残ることからみても、石核とその原石の大きさが実感される資料である。

1）青森県埋蔵文化財調査センター　総括主幹　　2）青森県立郷土館　主任学芸主査

図３－２～５は有茎石鏃で、うち３～５は尖基鏃である。尖基鏃は青森市三内丸山遺跡では、縄文時代前期末葉の円筒下層ｄ式期に多く（齋藤 2007a）、青森市石江遺跡（青森県教育委員会 2008）や秋田県池内遺跡（秋田県教育委員会 1997）の円筒下層ｃ～ｄ式期の土坑墓から一括出土した石鏃でも尖基鏃が多い。縄文時代前期後葉から末葉（円筒下層ｃ～ｄ式期）に帰属する可能性がある。図３－６、図４－１は上部を欠失した石槍である。図４－２は石匙で連続して上方から剥離した縦長剥片を素材としている。図４－４・５は石槍として登録されているが、４は大型品で上部を欠失し、５は先端が尖らないため、観察表では両面調整石器とした（表１）。

２．大平墓地公園遺跡の当館採集資料

剥片と石核を中心に少量の円筒下層式土器の破片を伴う資料が、平箱で３箱程度収蔵されている。図３－１の石核とともに展示され、展示から外された剥片は、「東津軽郡蟹田町大平グランド遺跡」の展示プレートとともに収蔵庫にある。大多数は剥片であるが、二次加工のある剥片・削器なども一部含んでいる。平箱に入っているポリ袋の一部には「大平グランド」と記載され、「Y グランド」の注記がある剥片や、遺物カードの入るものがある。遺物カードに 1979 年８月 11 日および 12 日と記載のあるものがあり、大平山元Ⅲ遺跡の調査中であることから大平山元遺跡群の発掘調査の折に採集されたものであり、生産資料（註３）の一部であることが分かった。

以上の資料から 16 点を抽出して図５～７で図化した。

図５－１は、打面となる上面で、長さ 9.6cm、幅６cm の縦長剥片、正面右側で長さ 9.5cm、幅約 4.2cm の縦長剥片、左側の近接した打点から長さ 11.1cm、幅約 4.5cm の縦長剥片が、裏面で長さ 10.5cm、幅 4.6 の縦長剥片が剥離された事が読み取れる。打面転移が繰り返されているが、礫面を打面とすることはない。また、正面上部の長さ 0.5 ～１cm の小さな剥離は、打点付近の稜の突出部分を落とすための打面調整の可能性がある。

図５－２は、上下の打面から剥片が生産され、正面図の右下方から上方に向かって長さ約 12cm、幅約４cm の縦長剥片が剥離されたことが読み取れる。

図６－１は、上面の礫皮を除去して、剥離面を打面とし、上方から連続的に長さ 10cm 前後の縦長剥片を生産している。生産された剥片は剥片剥離軸のねじれはない。なお底面を見ると、それに先だって底面側から横長剥片を１枚剥離してから打面を転移したことが推定できる。

図７は、石核と縦長剥片、それを素材とした石器である。図７－１は、珪化の進んだ良質な珪質頁岩を素材とした石核で長さが 11.3cm である。図７－２は採集品の中でも小型の石核であり、図７－３は搬入石材である黒曜石製剥片のため図示した。図７－４・５・８・９は縦長剥片及び縦長剥片素材の石匙であるが、主要剥離面の剥片剥離軸がねじれる。一方、図７－６の石錐、図７－７の微細剥離剥片、図７－ 10 の石匙のように、素材剥片の剥離軸が概ねまっすぐなものもある。図７－ 11 ～ 13 は石鏃と石鏃未製品の可能性のある二次加工剥片である。

３．大平墓地公園遺跡を紹介した論著と現状

大平墓地公園遺跡が周知の遺跡となったのが 1961 年であり（一町田 1980）、前述のように大型石核を含む登録資料 291 の郷土館収蔵年が 1971 年であることから、大平墓地公園遺跡は石器製作遺跡として、早くから認識されてきたと思われる。遺跡を紹介した文献記述を経時的にたどると、石器製作遺跡としての記載（葛西 1972、一町田 1980）から、他地域への石器流通のために石器製作されたという認識に深化し（蟹田町 1991）、同時期の青森市三内丸山遺跡への搬出の可能性まで触れられるようになった（川口 1995a）。その後、全国の人が手にする書籍（岡村 1998；註４）や報告書（谷口 1999）に記載されるようになる。齋藤は 1995 年から三内丸山遺跡の石器整理を約 10 年間担当した。整理作業の中で三内丸山遺跡から出土する石核の大きさが小さく、石槍や石匙に対応するものがないことが気になっていた。石核が小さくなるまで剥片生産に使用され徹底利用されたことも考えたが、その場合には石材産地から一定の距離があるといった石材環境が前提となる。そのため川口（1995a）の見解に依拠し、三内丸山遺跡の石器に関する記述で大平墓地公園遺跡との結びつきを想定した（齋藤 1998・2002a）。

大平墓地公園遺跡の 2019 年の現状は、グランドとしての面影がなくなっている。大平地区で遺跡探索をしていた 1991 年（齋藤 2007b）、青森県内の石材調査で各地を歩いた 2001 年前後（斎藤 2002b）には楕円形のトラック部分では草の分布が部分的であり、露出していた土には多数の小剥片・砕片が確認できた。現在はトラック部分も草に覆われて、遺物を確認できない。かつてはグランド南端付近には、その造成の際に押し出されたと推察される土が盛り上がりをもって残っていた（註５）。現在は、草に覆われ、遺物を確認できない。しかし、遺跡南側などグランド造成の影響を受けなかった部分では遺物が包蔵されていると思われる。また、遺跡西側の緩傾斜面を拓いた畑では、少量の剥片が現在も確認できる。畑付近の笹に覆われた西側緩傾斜面でも、遺物の残存が予想される。現在も多数の剥片を確認できるのは、遺跡北側の畑である（写真１・２）。石器製作遺跡と感じさせるだけの数量の剥片が現在も露出している。

おわりに

本稿では、青森県立郷土館所蔵の大平墓地公園遺跡の資料紹介とともに、関係文献および現状を記載した。資料紹介については一町田（1980）以来であり大型石核を含め、27 点の石器を紹介することができた。図３－１の大型石核は本遺跡を代表する石核といえるだろう。また、珪化がすすみ良質な珪質頁岩製石核にもかかわらず 10cm を超える大きさで残っていた図７－１は、通常の遺跡では消費されてしまうと思われ、本遺跡の性格を伝えている。なお、大平地区の遺跡群の存立基盤となる珪質頁岩に関しては、外ヶ浜町教育委員会による蟹田川上流域での産状調査（外ヶ浜町教育委員会 2011）や岩石学的調査（佐々木・柴 2019）等が継続されており、大平墓地公園遺跡の形成要因となる石材についての知見が蓄積されている。

なお本稿執筆の動機となった大平墓地公園遺跡の石核から剥離された縦長剥片と石匙との相関等についての考察は行っていないことを記しておきたい。図示した石核の剥離痕跡の読み取りからでは、生産された縦長剥片の厚さ等の情報を得ることはできない。また、根拠とするために必要な、様々な前提事項の証明を回避しながら検証することは不可能なためである。今後の発掘調査等で石匙と石匙製作に伴う一括した資料が得られれば、約 40 年前の大面遺跡の発掘調査報告書で注目された石匙の円筒下層式期の素材剥片の生産について､大きく研究が前進すると考えられる。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、（公財）山形県埋蔵文化財センターの大場正善氏からは、技術学の文献等でご協力をいただいた。また、外ヶ浜町教育委員会の駒田透氏、大平山元遺跡群の調査に携わった三宅徹也氏からご教示をいただいた。感謝いたします。

註

1　類似すると感じたのは、大きさ等は異なるが図２の長野県神子柴遺跡の石核正面図（藤沢・林 1961 の第５図）である。図２の石核裏面図は登録資料として知られていた図３－１の石核と、大きさ、円盤状である点、縁辺から求心的な剥離を行う点に類似性があると感じ、以前から注目していたところであった。

2　小山内氏は大山小学校在職中の 1976 年の大平山元Ⅰ遺跡の発掘調査に参加し、調査中に大平山元Ⅱ遺跡の存在を教示した人である。これにより 1977・1978 年に大平山元Ⅱ遺跡の発掘がおこなわれるようになった；岩本 1979。また、1971 年に大山小学校に着任した工藤彪の随想に、小山内氏は運動場ができるまではテント等を大平グランドに運びあげるのがたいへんだったと述懐する大山小学校教頭として登場する（『大山小学校閉校記念誌「けやき」』）。同書には、大山小学校の運動会は墓地公園のグランドで地域をあげて盛大に行われたという文章が卒業生などから寄せられている。同書によると大山小学校の運動場が完成したのは 1971 年７月１日である。

3　当館での調査研究（発掘・採取・採集）による資料は生産資料として、寄附資料と区分している。

4　「厚さ 50 センチメートルに及ぶ頁岩の石屑層」という記述（岡村 1998）については、他の文献には出てこない。大平墓地公園遺跡では正式な発掘調査が行われていないこともあり、引用する際は注意が必要である。

5　三宅徹也氏から、グランド縁辺部の、造成のために押し出した土が盛り上がって残存する部分や傾斜面、および墓地入口の傾斜面から多量の剥片を採取できた旨、ご教示を受けた。

文献

青森県教育委員会 1980『大面遺跡発掘調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第 55 集
青森県教育委員会 2008『石江遺跡・三内沢部（３）遺跡Ⅲ』青森県埋蔵文化財調査報告書第 485 集
青森県立郷土館 1979『大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書』青森県立郷土館調査報告第５集・考古２
青森県立郷土館 1994『青森県立郷土館収蔵資料目録　第４集　考古編』
秋田県教育委員会 1997『池内遺跡　遺構編』秋田県文化財調査報告書第 268 集
池田敬 1980「石器の原石をさぐる」『大面遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会
一町田工 1980「蟹田町大平グランド遺跡」『考古風土記』第５号
岩本義雄 1979「調査にいたる経緯」・「周辺の遺跡」『大平山元Ⅰ遺跡発掘調査報告書』青森県立郷土館
小笠原幸範 1980「石核」『大面遺跡発掘調査報告書』青森県教育委員会
大場正善 2014「石器から過去の記憶を呼び起こす －動作連鎖と実験考古学－」『“山形の縄文文化小論集”』
放送大学山形学習センター
大場正善 2019「東山型ナイフ形石器の石刃は、どのように剥離されていたのか?－お仲間林遺跡、および太郎水野２遺跡出土石刃石器群の動作連鎖の概念に基づく石器技術額分析－」『研究紀要』第 11 号
公益財団法人山形県埋蔵文化財センター

葛西勵 1972「大平グランド遺跡」『東北新幹線関連遺跡分布調査報告書』青森県教育委員会
岡村道雄 1998「原産地遺跡での石材獲得」『石器の盛衰』講談社
川口潤 1995a「縄文時代の石器製作拠点「大平グランド遺跡」」『かにた議会だより』第４号
川口潤 1995b「石器作りのメッカ「大平」」『かにた議会だより』第５号・第６号
工藤彪 1999「力を注いだ学芸会」『大山小学校閉校記念誌「けやき」』閉校記念誌編集委員会
斎藤岳 1998「石器」『三内丸山遺跡Ⅸ』第二分冊　青森県埋蔵文化財調査報告書第 249 集
斎藤岳 2002a「石器」147 頁 『青森県史　別編　三内丸山遺跡』
斎藤岳 2002b「青森県における石器石材の研究について」『青森県考古学会 30 周年記念論集』
齋藤岳 2007a「三内丸山遺跡の黒曜石製石鏃の搬入形態について」『特別史跡三内丸山遺跡年報』10
齋藤岳 2007b「外ヶ沢町沢辺遺跡等の採集石器について」『三浦圭介氏華甲記念考古論集』三浦圭介氏華甲記念考古論集刊行委員会
齋藤岳 2018「石器」『三内丸山遺跡 44』第二分冊　青森県埋蔵文化財調査報告書第 588 集
外ヶ浜町教育委員会 2011『大平山元　旧石器時代から縄文時代への移行を考える遺跡群』
外ヶ浜町教育委員会 2019『史跡　大平山元遺跡』
佐々木実・柴正敏 2019「大平山元遺跡出土頁岩の蛍光Ｘ線分析」『史跡　大平山元遺跡』青森県外ヶ浜町教育委員会
谷口康浩 1999a「大平山元遺跡群の概要」大平墓地公園遺跡『大平山元Ⅰ遺跡における考古学的調査』大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団
羽生淳子 2005「ジェンダー考古学から見た縄文土偶と文化的景観」『特別史跡　三内丸山遺跡年報』８
藤沢宗平・林茂樹 1961「神子柴遺跡―第一次発掘調査概報―」『古代学』９

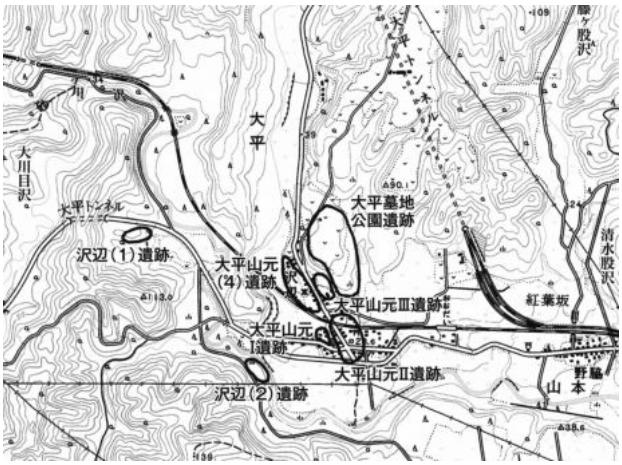

図１　大平墓地公園遺跡の位置
（外ヶ浜町教委 2011 より）

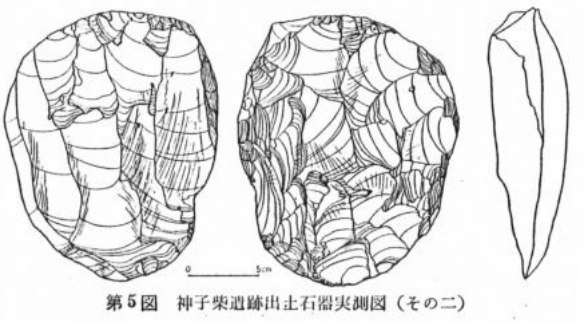

図２　長野県神子柴遺跡出土石核
（藤澤・林 1961 より）

写真１　遺跡北側から墓地公園を望む（2019 年）

写真２　写真１の畑の北東端に露出した剥片（2019 年）

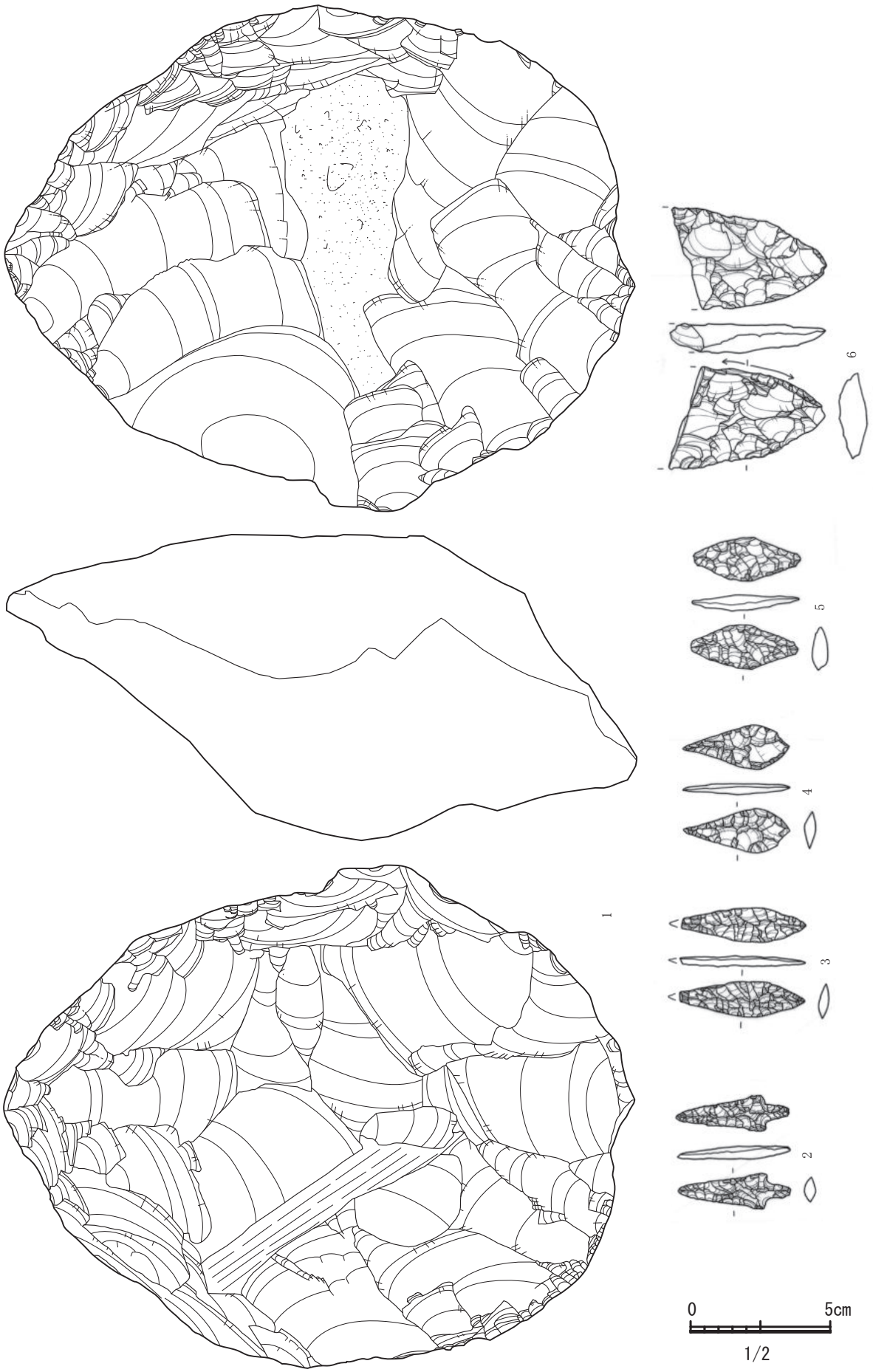

図３　大平墓地公園遺跡採集石器１

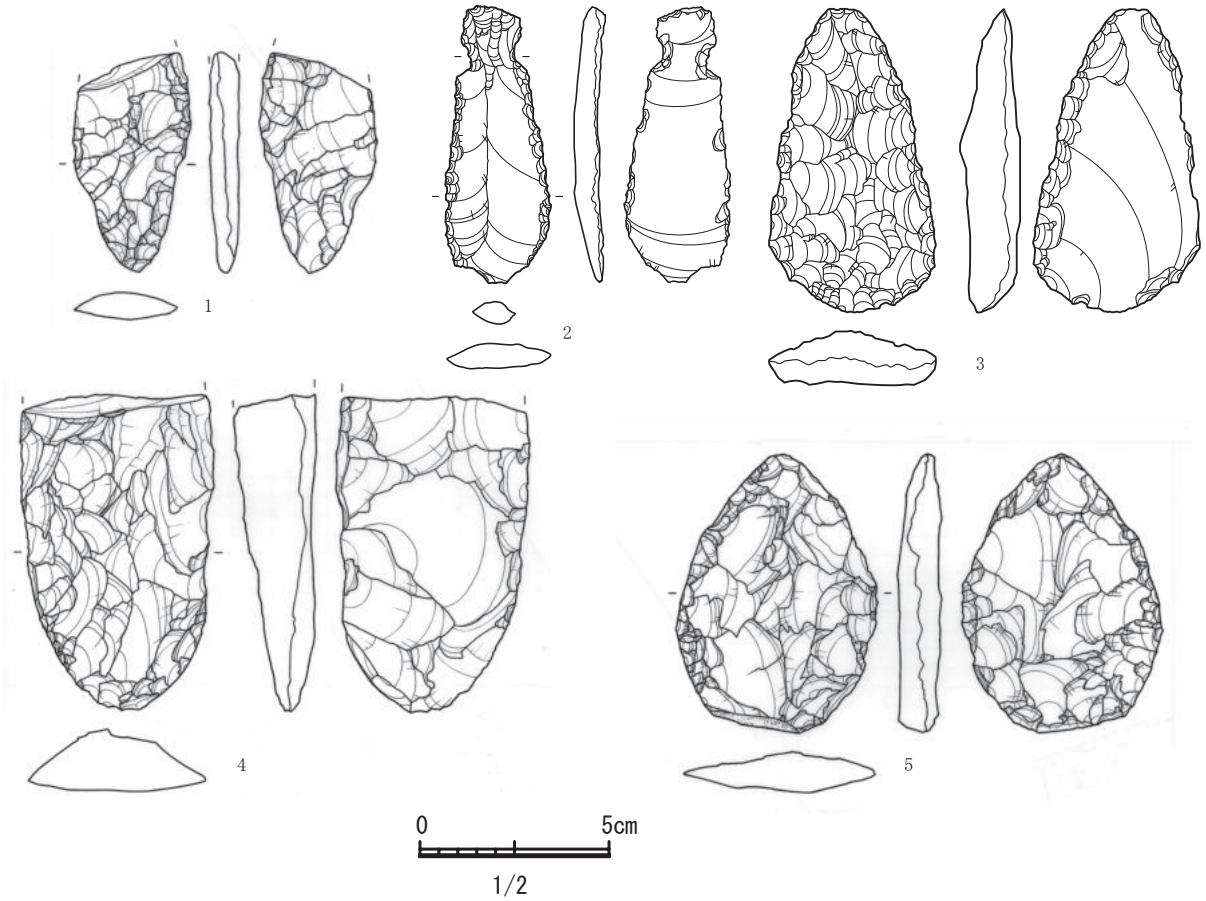

図４　大平墓地公園遺跡採集石器２

表１　大平墓地公園遺跡石器観察表

図番号	資料区分	収蔵番号	枝番	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考
図３－１	寄附	291	1	石核	珪質頁岩	22.6	18.1	10.9	3472.1	
図３－２	寄附	291	4	石鏃	珪質頁岩	4.0	1.3	0.4	1.6	
図３－３	寄附	291	3	石鏃	珪質頁岩	(4.4)	1.2	0.4	(1.8)	
図３－４	寄附	291	2	石鏃	珪質頁岩	3.8	1.6	0.4	1.8	
図３－５	寄附	291	10	石鏃	珪質頁岩	3.8	1.6	0.6	2.8	
図３－６	寄附	291	8	石槍	珪質頁岩	(5.5)	(3.8)	(1.1)	(18.8)	
図４－１	寄附	291	9	石槍	珪質頁岩	(5.8)	(3.1)	(0.8)	(13.4)	
図４－２	寄附	291	6	石匙	珪質頁岩	7.3	2.8	0.9	11.9	
図４－３	寄附	291	11	篦状石器	珪質頁岩	8.0	4.4	1.5	43.2	
図４－４	寄附	291	12	両面調整石器	珪質頁岩	(8.4)	(5.1)	(2.2)	(87.7)	
図４－５	寄附	291	7	両面調整石器	珪質頁岩	7.3	5.3	1.1	44.9	
図５－１	生産	未登録	14	石核	珪質頁岩	13.0	11.5	8.7	1267.9	
図５－２	生産	未登録	15	石核	珪質頁岩	21.6	10.1	7.5	1767.3	
図６－１	生産	未登録	12	石核	珪質頁岩	11.0	10.2	14.3	1197.7	
図７－１	生産	未登録	13	石核	珪質頁岩	11.3	8.2	4.8	362.1	珪化良く良質石材
図７－２	生産	未登録	4	石核	珪質頁岩	3.8	3.3	2.9	24.1	裏面石の目により不規則剥離
図７－３	生産	未登録	16	剥片	黒曜石	2.2	1.5	0.3	2.3	「Y グランド表」の注記
図７－４	生産	未登録	8	剥片	珪質頁岩	8.6	2.3	1.2	17.2	裏面の剥片剥離軸がねじれる
図７－５	生産	未登録	11	剥片	珪質頁岩	(5.7)	(2.2)	(0.5)	(6.2)	ガジリ、裏面は剥片剥離軸にねじれと打点付近にリップ
図７－６	生産	未登録	9	石錐	珪質頁岩	8.5	3.0	1.0	16.9	
図７－７	生産	未登録	10	微細剥離剥片	珪質頁岩	6.6	4.2	1.1	27.4	正面上面に潰れ
図７－８	生産	未登録	5	石匙	珪質頁岩	6.4	2.0	0.5	4.9	「Y グランド」の注記
図７－９	生産	未登録	7	石匙	珪質頁岩	6.1	3.7	0.7	9.5	
図７－10	生産	未登録	6	石匙	珪質頁岩	5.5	3.6	0.9	10.7	
図７－11	生産	未登録	3	二次加工剥片	珪質頁岩	3.3	2.2	0.5	2.8	平坦な剥離、石鏃未製品か
図７－12	生産	未登録	1	二次加工剥片	珪質頁岩	3.0	2.1	0.5	0.7	平坦な剥離、石鏃未製品か
図７－13	生産	未登録	2	石鏃	珪質頁岩	3.2	1.5	0.5	2.2	

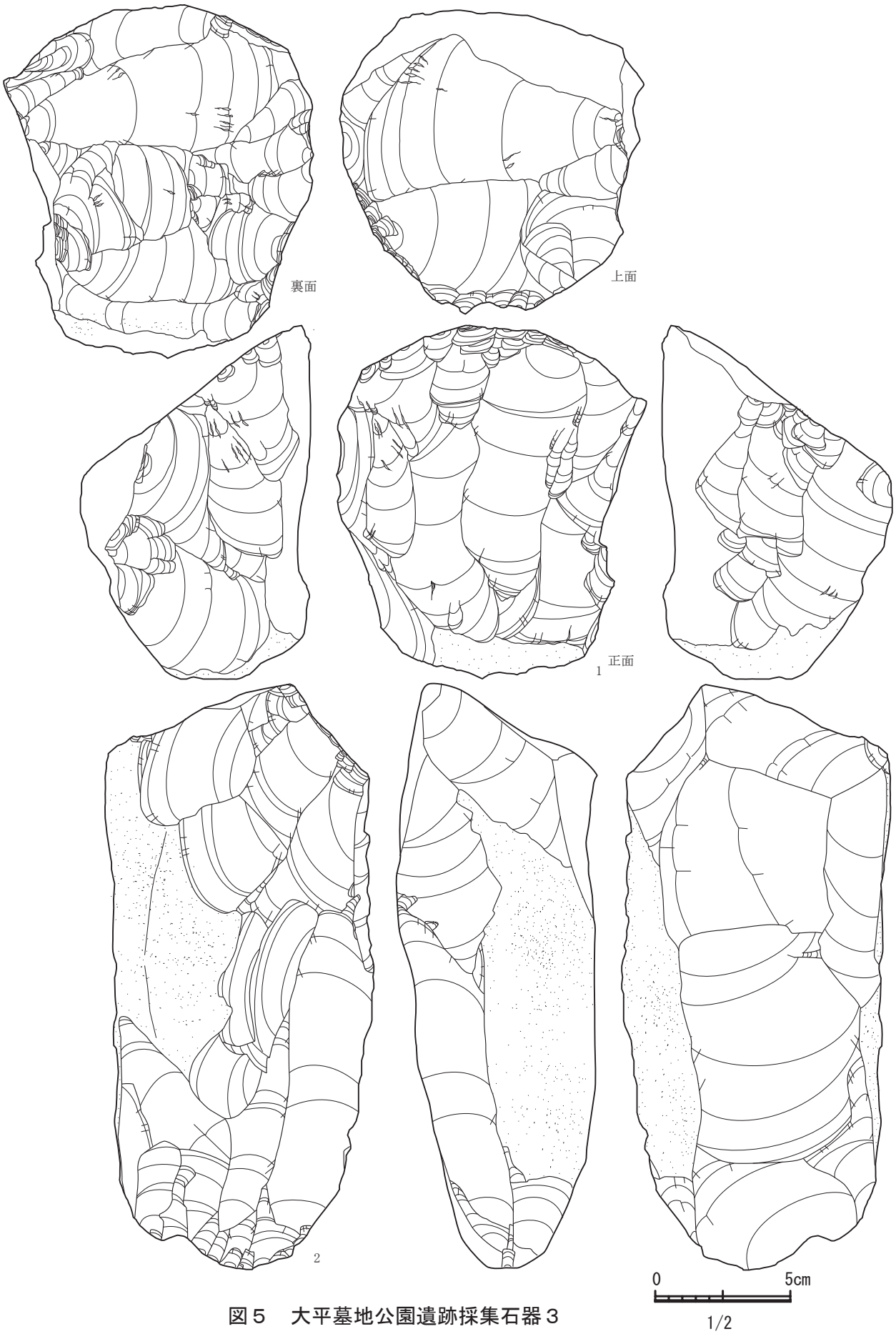

図５　大平墓地公園遺跡採集石器３

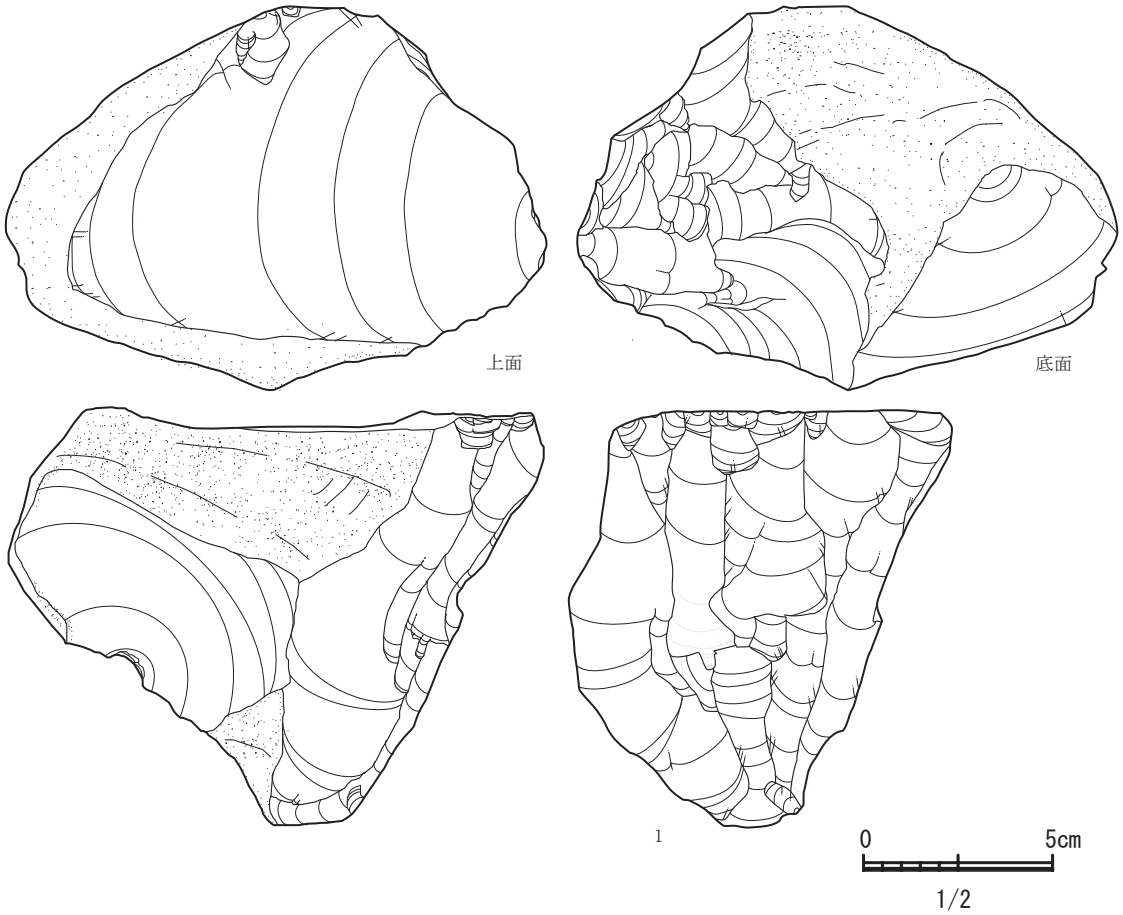

図６　大平墓地公園遺跡採集石器４

表２　大平墓地公園遺跡の関連文献と記述抜粋

葛西励 1972「大平グランド遺跡」東北新幹線関連遺跡分布調査報告書　青森県教委	この場所は大平小学校の旧グランドで，約 6,000 ㎡の範囲に石器・剥片・石核などが無数に散布している所から石器製造跡と考えられる。台地の南側傾斜面には遺物の包含層も露出し，採集した土器は縦位の撚糸文を施文したものが多く，胎土に繊維を含むなどの特徴から，縄文時代前期の円筒下層ｂ～ｃ式に相当するものと思われる。
一町田工 1980「蟹田町大平グランド遺跡」『考古風土記』第 5 号	本遺跡は、昭和 36 年井上久氏の調査による周知の遺跡である。当時、表採された遺物は、縄文時代の円筒土器下層ｂ～ｃ式、上層式、石器では磨製石斧、石鏃、石匙、石皿などが確認されている。（中略）本遺跡は、部落共同グランドから、共同墓地用地として再利用するために整地されている。従って、現状は隣接する畑地が遺跡の一部として残されている状況である。墓地入口付近には、現在も敷き詰めたようにフレイク、チップ類がみられ、段丘縁辺部にはフレイク等の素材と同類の自然礫が散在している。このことから石器製作跡と思われる。
蟹田町 1991「大平墓地公園遺跡」「縄文時代」『蟹田町史』協力者として工藤大、成田滋彦、三宅徹也と記載あり	縄文時代前期円筒下層ｂ式等の土器を出土しているこの時期の遺跡としては、規模から見ても県内では類例をみない石器製作所跡であり、製作された石器を他地域に供給していた可能性も考えられる貴重な遺跡である。（中略）地区の運動場とするために一部造成され、その後さらに昭和四七年ころに墓地としての転用が図られている。そのため遺跡の主要部分は消滅し、現在は東側と北側の一部に遺物包含層が若干残っている状態である。（中略）遺物のうち土器は、円筒下層ｂ式、ｃ式、ｄ式等を出土しているほかに、円筒上層土器の出土も報告されている。（中略）このようなことから本遺跡は縄文時代前期から中期にかけての遺跡である。しかし、遺跡の北側では十腰内Ⅰ式以前の弥栄平２式、十腰内Ⅰ式等を出土している（中略）。また、生産跡では石器製作所跡である一部が遺跡の南側縁辺部で確認できる。石器製作に用いられている原石は、石片などからみて硬質頁岩であり、本遺跡の周辺で容易に手に入れられるものである。石片などの散布状況から見て県内でこれだけの類例はなく、他に供給することを目的として製作された遺跡であると考えられる。
川口潤 1995a「縄文時代の石器製作拠点「大平グランド遺跡」」『かにた議会だより』第 4 号	ちょうど青森市三内丸山遺跡と同じ、縄文時代前期から中期にかけての遺跡である。三内丸山遺跡では（中略）石器がどこで作られたかについては不明な点が多い。話しを大平グランド遺跡に戻そう。この遺跡には、かつて、転ぶと怪我をするといわれたほど、おびただしい数の石器が落ちていた。よく観察すると、それらの大半は、石器を作ったときの破片や残核であることがわかる。そこが石器製作の場所であったことはまず間違いない。しかもかなり大規模な。ここで作られた石器はあまりに大量であるため、他の消費地に供給された可能性が推定される。もしかしたら三内丸山遺跡にも・・・・
岡村道雄 1998「原産地遺跡での石材獲得」『石器の盛衰』講談社	弥生時代、縄文時代ともに、剥片石器の素材を獲得した原産地遺跡は、本来持ち出し用の原石・石核、原石の両面に粗く加工した楕円形や木葉形の大型素材（両面調整石器）、大型剥片と、それらを製作したときに飛び散った剥片や石屑、そして、それらの加工に使った敲石・凹石、遺跡によっては楔形石器が、おびただしい量で残されているのが特徴である。 頁岩地帯の津軽半島では厚さ五〇センチメートルに及ぶ頁岩の石屑層が、約六〇〇〇平方メートルも広がり、前期のわずかな土器片を採取した蟹田町大平墓地公園遺跡（後略）
谷口康浩 1999「大平山元遺跡群の概要」大平墓地公園遺跡『大平山元Ⅰ遺跡における考古学的調査』大平山元Ⅰ遺跡発掘調査団	旧称大平グランド遺跡。一町田　工氏の資料紹介（一町田 1980）によって周知のものとなった。大平山元Ⅰ・同Ⅱ・同Ⅲ遺跡が立地する大平面より約 10m 高位の館ノ沢段丘面に立地する。正式な発掘調査はまだ行われていないが、現在地表に分布する遺物や大山小学校所蔵の資料から、縄文時代前期円筒下層ｂ式～円筒上層ａ式期の遺跡であることが知られる。特に硬質頁岩製の剥片・砕片が多量に存在し、石器製作跡としての性格が考えられる。以前は小学校地であったが、現在は共同墓地となっている。
斎藤岳 2002a「石器」『青森県史　別編　三内丸山遺跡』青森県	津軽山地には，縄文時代前～中期の蟹田町大平墓地公園遺跡という，膨大な量の剥片や石核などが出土した遺跡が知られている。三内丸山遺跡の石器も原石から持ち込まれ作られたもののほかに，こうした原石産地周辺で加工されたものも搬入されている可能性がある。

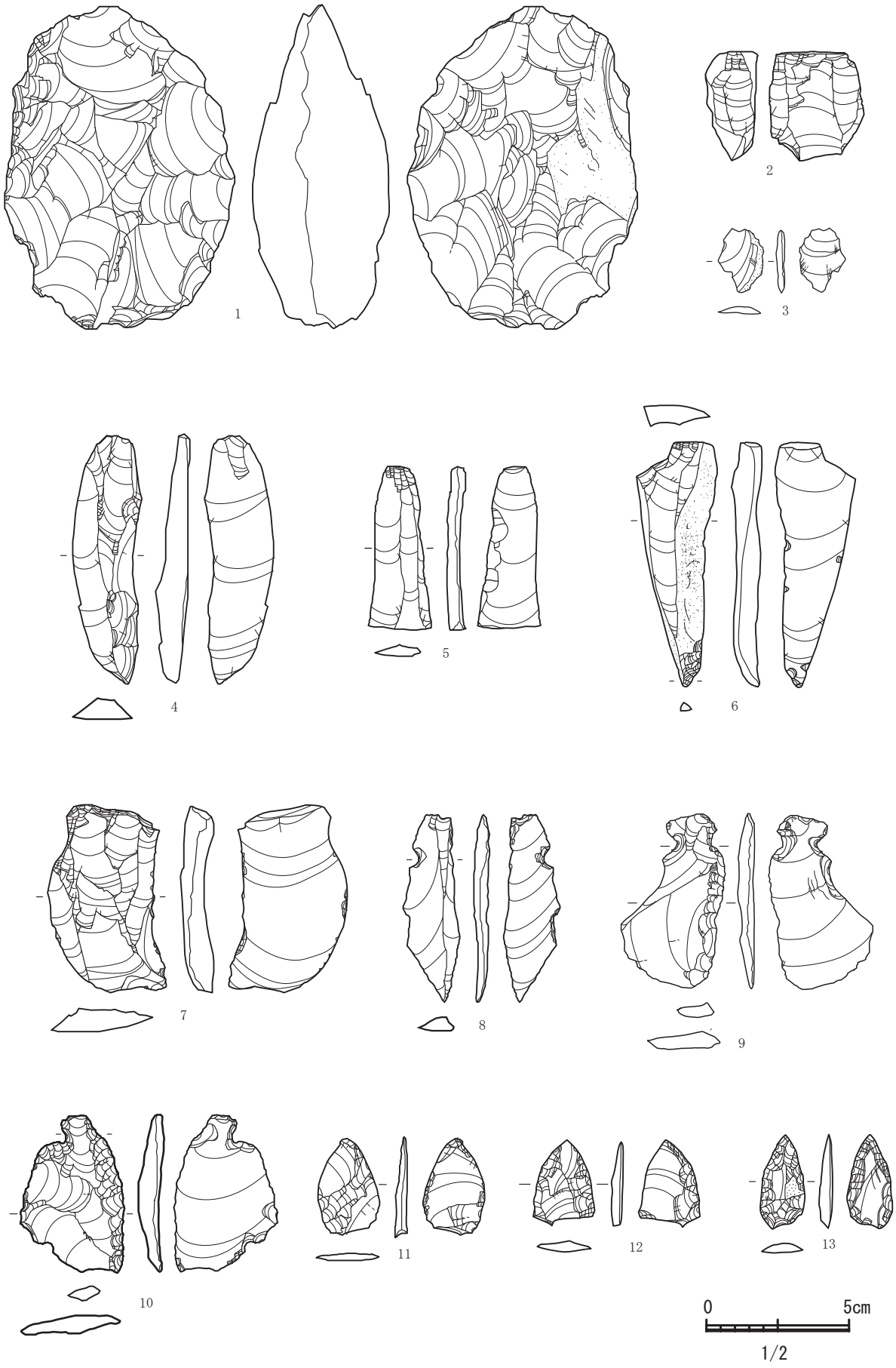

図７　大平墓地公園遺跡採集石器５

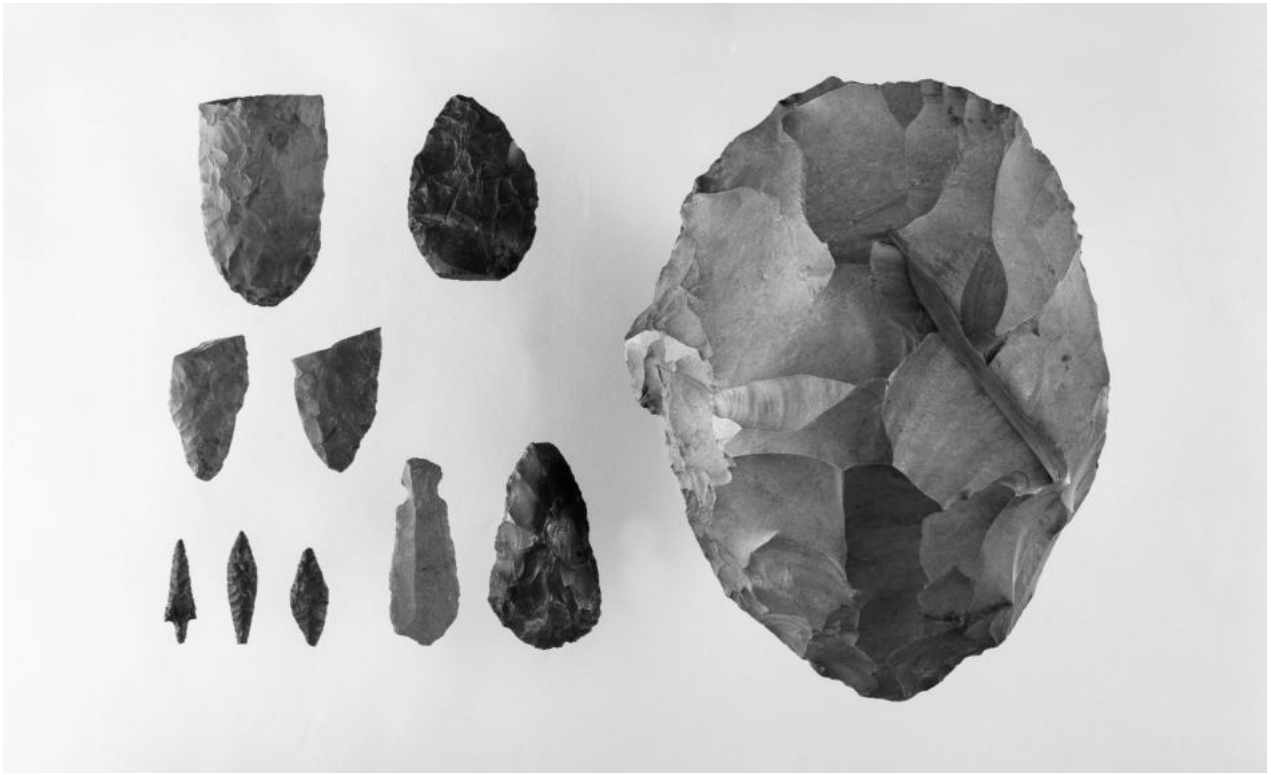

写真３　大平墓地公園遺跡　採集石器（寄附資料・登録番号２９１）

写真４　大平墓地公園遺跡　採集石器（生産資料・未登録）